

Press Release

市民美術大学 特別講座 「これからのアートとの出会い方」

2020年12月12日 土曜日 午後2時

会場 ウェルとばた 多目的ホール (〒804-0067 北九州市戸畑区汐井町1番6号)

参加費 1000円 ※要申込 申込締切 12月7日(月) 定員80名

現代美術センターCCA北九州は、国内外のアートの世界で、今何が起きているのかについて、より多くの方に知っていただくために、専門家の方を講師に迎える市民講座「市民美術大学」を、2008年より定期的に開催しています。

2020年は、世界中がこれまでにない経験と挑戦、変化を強いられた年となりました。美術界も例外ではありません。日本だけではなく、世界中の美術館は臨時休館となり、多くの展覧会が中止、または延期になりました。活況を呈していたアート市場も数カ月間は完全にストップしました。

「作品を見る」という、あまりにも当たり前だった基盤が、一時期完全に失われてしまったのです。その間、新しい動きも見られました。例えばインターネット上で様々なプロジェクトが行われ、「アーカイブ」や「コレクション」への回帰が傾向として見られるようになりました。同時に、入場者数や入場料といった数字に大きく頼っていた美術館やアートイベントへのダメージは大きく、その多くがプログラムの再編成を迫られています。最も重要な国際美術展の一つであり、5年に一度ドイツで行われる「ドクメンタ」のディレクターを2017年に努めたキュレーター、アダム・シムジックは言います：「美術館は常に変革し続けなければならない、そうでなければ存在意義を失ってしまう」。これからのアートの出会いは、美術館の中で、そして外で、どのような形になっていくのでしょうか。

今回は、これまで「市民美術大学」の講師を務められたことのある秋元雄史氏と、文化庁から林保太氏を講師にお迎えし、コロナ禍のアートと私たちの関係を考えていきます。

秋元 雄史(あきもとゆうじ)東京藝術大学大学美術館館長/練馬区立美術館館長)

1955年生まれ。ベネッセコーポレーションに勤務する傍ら、美術館の運営責任者として国吉康雄美術館、ベネッセアートサイト直島の企画、運営に携わった。地中美術館館長、ベネッセアートサイト直島・アーティストック・ディレクターなどを務めた後、2007年金沢21世紀美術館館長に就任し、以後10年近くに渡り数多くの現代美術の展覧会やプログラムを展開する。15年から現職。東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 文化・教育委員会委員に就任。18年よりアジア・カルチュラル・カウンシル日本財団理事。

林 保太(はやしやすた)文化庁文化経済・国際課課長補佐

1967年生まれ。1994年から文化庁勤務。2003年、河合隼雄文化庁長官(当時)が提唱した「関西元気文化圏構想」立ち上げを担当。2009年から11年にはメディア芸術(特にアニメーション)振興施策の企画立案を担当。2013年8月からは、青柳正規文化庁長官(当時)の下、現代アート振興のための政策立案に向けた調査研究を継続的に実施。2018年10月から現職。日本におけるアート・エコシステムの形成を目指す「文化庁アートプラットフォーム事業」を担当。



お問合せ/お申込み

現代美術センターCCA北九州
〒808-0135 北九州市若松区ひびきの2-5 学術研究都市
TEL 093 695 3691 Eメール mail@cca-kitakyushu.org www.cca-kitakyushu.org